

令和 4 年度の事業報告書

令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 リアル・リンク京都

1 事業の成果

「リアル・リンク」は真に喜びに溢れた繋がりを生み出す地域貢献型の法人で、『環境・福祉・教育・政経の相乗』を合言葉に、ご利用者の喜びがご家族や職員の喜びとなり、その喜びが地域社会を活性化させ、地域社会・ご利用者・職員の好循環を生み出すことを目標に活動し、今年度で発足 29 年となった。

収益事業の中核をなす介護福祉部門は創業 10 年目に入り、通所介護（デイサービス（北区））、小規模多機能型居宅介護（北区・右京区）、認知症対応型共同生活介護（グループホーム（北区・右京区））の 3 事業所であったが、コロナ禍の影響により業績が著しく落ち込んだ小規模多機能型居宅介護事業（右京区）を休止したことや、「きょうと福祉人材育成認証制度」の取得により新規採用職員が増え離職者が減ったこともあり、黒字転換を果たすことができた。ただ長引くコロナ禍による休業や物価高騰の波は避けられず、目標の計画までは届かなかった。

加えて、人材確保のひとつの手段として進めていた、特定技能実習生の採用に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により入職に至らず、引き続き対応を模索している。

非収益事業においては、例年通りの活動であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数を制限するなどの工夫をして活動を行った。

以下に各事業所からの詳細報告を記載する。

■ 収益事業部門

(1) 紫明会館デイサービス（通所介護事業）

本年度も引き続き新型コロナウイルスの影響下でのスタートであったが、61 名の利用登録者数を 65 名に、17 名の 1 日平均利用者数を 18 名に、また毎月の請求件数を 57 件と数値目標を掲げ、営業活動も徐々に再開した。結果、それぞれ 65 名、19 名、60 件となり目標を達成することができた。また職員の体制も強化でき加算の取得にも繋がった。

一方、新型コロナウイルス感染症のクラスターが起り、計 3 回、13 日間の休業を余儀無くされたこともあったが、引き続き安心してご利用いただけるよう感染防止対策にも最大限注力した。

コロナ禍も収束の兆しが見え、次年度はさらに積極的な営業活動を実施、また職員教育でレベルアップも図りつつ、最大のアピールポイントである外出レクリエーションを再開していくこと、さらに機能訓練への取り組みの改善や施設整備、営業時間拡大などで、ご利用者のニーズにお応えし、また新規ご利用を得られるように取り組んでいく。

(2) 走和の郷（グループホーム・小規模多機能型居宅介護事業）

本年度も引き続き新型コロナウイルスの影響を大きく受けた。

グループホーム事業に関しては、ご入院や転院などにより空室が発生し、コロナ禍により積極的な営業活動が行えなかったこともあり、期末まで空室が続いた。

小規模多機能型居宅介護事業に関しては、コロナ禍の影響も大きく、事業経営が非常に不安定となったため、事業の一旦の休止を行い、経営の安定と事業の再開を図ることとした。

他方、前年度から引き続き地域貢献活動の取り組みとして、交流スペースを「いけばな療法」「おやじの会」等に活用できた。

次年度に向け、まずはグループホーム事業の満床（25 室）を目指し、積極的、継続的な営業活動を行い、職員のキャリアアップを支援し、安定した事業体制を築く。

(3) 柏野の郷（グループホーム・小規模多機能型居宅介護事業）

本年度も引き続き新型コロナウイルスの影響下でのスタートであったが、グループホーム事業に関しては、年度を通して満床（18 室）で推移することができた。

小規模多機能型居宅介護事業に関しては、上半期は現場体制が安定せず、現状の維持に努め、下半期に入り安定が見込めたため、短期利用の受け入れを開始、さらに期末にかけレギュラー利用の受け入れが可能となった。

一方、新型コロナウイルス感染症のクラスターが計 2 回起こったが、行政と連携を取りながら短期間で収束することができた。

次年度は、グループホーム事業では早々に 1 名が特養入居のため退去となるが、問い合わせもあり成約に結びつけたい。小規模多機能型居宅介護事業は体制も盤石のため、レギュラー利用中心の受け入れを進めていく。

職員の確保、定着のため、引き続きジョブローテーション、紹介予定派遣を活用し、また管理者の後任の準備を進める。

■ 非収益事業部門

(1) ふエコ（子育て支援・環境教育事業）

子育て支援・環境教育事業「ふエコ」では、幼児・児童とその保護者および関係者を対象に、京都府下一円およびその近隣地域の保育所、幼稚園、子育てサークル、地域のサークルなどにスタッフが訪問して活動を行った。遊びを通しての環境教育の導入は、地球環境保全への関心の喚起と普及に貢献するものとする。また、子どもへの啓発活動は、家庭や地域への波及効果も大きく、子どものみならず大人への啓発にもつながると考える。子どもがもっと自然を好きになるために本事業は子どもの心を育てることに貢献したと考える。

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、実施にあたっては、健康観察やマスクの着用、手指の消毒を徹底するとともに、密を避けるため参加人数を制限し、参加者同士での用具の共用を避けるなどの工夫をして活動を行った。

活動内容は別紙のとおり。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (単位：千円)
各種企業、団体、個人に対する啓発活動を通し、環境保全を推進する事業	環境教育・子育て支援事業「ぷエコ」活動内容は別紙のとおり	(A) R4/4/1 ～ R5/3/31 (B) 京都府下一円及びその近隣地域 (C) 3名	(D) 地域住民 (E) 180名	
介護保険法に基づく通所介護事業、介護予防通所介護事業、認知症対応型共同生活介護事業、小規模多機能型居宅介護事業	①通所介護事業、介護予防通所介護事業	(A) R4/4/1 ～ R5/3/31 (B) 北区 (C) 22名	(D) 地域住民 (E) 743名	
	②認知症対応型共同生活介護事業、介護予防認知症対応型共同生活介護事業	(A) R4/4/1 ～ R5/3/31 (B) 右京区 (C) 25名	(D) 地域住民 (E) 281名	
	③小規模多機能型居宅介護事業、介護予防小規模多機能型居宅介護事業	(A) R4/4/1 ～ R5/3/31 (B) 右京区 (C) 6名	(D) 地域住民 (E) 16名	
	④認知症対応型共同生活介護事業、介護予防認知症対応型共同生活介護事業	(A) R4/4/1 ～ R5/3/31 (B) 北区 (C) 14名	(D) 地域住民 (E) 216名	
	⑤小規模多機能型居宅介護事業、介護予防小規模多機能型居宅介護事業	(A) R4/4/1 ～ R5/3/31 (B) 北区 (C) 14名	(D) 地域住民 (E) 180名	

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	事業費の金額(単 位:千円)
貸館事業	なし		
介護員養成研 修事業	なし		
看護学校受験 予備校の運営	なし		

(別紙)

子育て支援・環境教育事業「ふエコ」
令和4年度 活動報告

年月日	対象	場所	参加者数	内容
R04/05/19	高槻あいわ保育園 「地球っこクラブ」 5歳児	野外活動 (萩谷総合公園)	35名	ウォーキング 自然散策
R04/08/06	親子ふれあい体験事業 幼児・小学生 親子	向日市民 体育館	20名	牛乳パックが大変身
R04/08/25	高槻あいわ保育園 「地球っこクラブ」 5歳児	保育園内 教室	35名	牛乳パックが大変身
R04/11/24	高槻あいわ保育園 「地球っこクラブ」 5歳児・	野外活動 (東海自然歩道)	35名	ウォーキング 自然散策
R04/12/10	親子ふれあい体験事業 幼児・小学生 親子	向日市民 体育館	20名	リース まつぼっくりツリー
R05/03/16	高槻あいわ保育園 「地球っこクラブ」 5歳児	野外活動 (東海自然歩道)	35名	ウォーキング 自然散策